

第1学年公民科(公共)学習指導案

指導者 ○○ ○○
(指導担当教員 ○○ ○○)

1. 日時 令和○年○月○日(○) 第1校時(9:00～9:50)
第2校時(10:05～10:55)

2. 学年・組 第1学年○組 計○名

3. 場所 第1学年○組 教室

4. 単元名 豊かな生活と福祉の実現

5. 単元の目標

(知識及び技能)

- ・職業選択、雇用と労働、社会保障のしくみについて、語句の意味、制度の内容を理解している。
- ・資料から、少年非行・少年犯罪の傾向を適切に読み取っている。

(思考力、判断力、表現力等)

- ・職業選択、雇用と労働、社会保障について、豊かな生活を実現するための施策を考察している。
- ・具体的事例に対する支援・施策の具体的・効果的な活用方法や、支援を受けられない層への新たな支援・施策について考察している。

(学びに向かう力、人間性等)

- ・日本経済に関わる諸問題について、よりよい社会の形成に関心をもち、課題解決の意義を見いだしている。

6. 単元について

①教材観

本単元では、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などの日本経済に関わる諸問題について取り扱う。これらに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府が担っていること、活発な経済活動と個人の尊重をともに成り立たせることが必要であることを理解させる。

「職業選択」では産業構造の変化と中小企業について取り扱い、産業構造の変化の中での起業についての理解を深めることができるようにする。「雇用と労働問題」については、仕事と生活の調和という観点から労働保護立法についても扱う。「少子高齢社会における社会保障の充実・安定化」については、既習の財政及び租税の役割と関連させて取り扱い、国際比較をしながら日本の財政の現状や少子高齢社会などを理解させ、現代社会の特色を踏まえて財政の持続可能性と関連付けて扱う。

これらの事柄について、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現させる。主題は「少年犯罪・少年非行と貧困問題」とし、少年犯罪・少年非行の背景にある貧困問題について

考察させる。主題の探究にあたって、『令和4年度犯罪白書』P. 104～P. 155、石井光太著『本当の貧困の話をして 未来を変える方程式』P. 162～P. 167を使用する。主題に関わって、基本的人権の保障について取り扱ったり、自立した主体となる個人を支える家族・家庭や地域などにあるコミュニティに着目して、世代間の協力・協働や、自助・共助及び公助などによる社会的基盤の強化などと関連付けたりするなどして、主題を追究したり解決したりできるようにする。

②生徒観

本学級は明るく活発な雰囲気のあるクラスである。中心的存在となる男子生徒数名を軸として、与えられた課題に真剣に取り組み、指導者の発問に積極的に発言するなど、意欲的に学習に取り組む雰囲気が作られている。グループワークでは、クラスの持つ活発さが十分に発揮され、多様な視点から意見が繰り出されることもある。答えが分かった生徒が他の生徒に教えたり、わからない部分を質問し合ったりと、自由な発言を受容し合える関係づくりがされている。その一方で、興味関心が薄いテーマでは飽きが出て有意義な学習ができなかったり、昼食後の授業では集中力が途切れてしまったりするため、授業展開に工夫が必要である。

公民科の学習内容に対する関心は高く、ニュースをよく見ている生徒が多い。特に、日本の政治的課題への関心が高く、経済的分野の学習を通して、税政策が日本経済や国民生活に与える影響などを考えた。

一問一答のような問題を得意とする生徒が多く、語句などの知識は有している。しかし、覚えたことは断片的でなく、知識と具体的事象を関連付けたり、知識と資料を関連付けたりするなど、知識の応用が難しく、定期考査での得点につながっていない。知識を活用した思考・表現に課題があると考えられる。

本単元に関わっては、社会保障の仕組み・産業構造・労働基本権や労働三法について用語レベルでの理解がなされていると推測される。一方で、それらに関わって税金がどのように使われているかといった具体的状況やそれらの仕組みが自身とどのように関わっているかについては考察できていない段階にある。したがって、本単元では、それらの仕組みと自身の関係性、より良い社会への変革について考察させていきたい。

③指導観

本単元の学習内容は、生徒自身が法令や統計、資料等から日本経済の特質や抱えている課題を読み取ることができるものとなっている。そこで、指導者が一方的に知識を伝達するだけでなく、生徒同士が協働して課題解決に取り組むことができるような授業を展開する。

重要語句の説明や労働三法などの内容、社会保障制度の仕組みについては講義形式の授業を行い、課題の考察に必要な事柄を生徒に理解させる。その後は、生徒たちに、問いに対する答えを自主的に調べたりまとめたりさせたい。調べたりまとめたりしている過程で生まれた疑問については積極的に調べるよう指導し、生徒の興味関心を尊重して学習活動を進めたい。調べたりまとめたりした結果はタブレットを活用してクラスで共有できるようにし、他の生徒がどのような活動をしているかを知ることで、生徒の学習意欲の向上に努めたい。また、同じ疑問をもつ生徒が複数いれば、必要に応じてグループでの学習活動を認め、生徒が協働して学習を進められるよう指導する。

主題の解決に当たっては、具体的事例に基づいて学習活動を行う。その過程で合意形成する場面をつくり、他者の意見を尊重したり、自分の意見を主張したりといったアサーティブコミュニケーションを視野に入れた学習を取り入れたい。活動的な学級であるからこそ、多様な意見があふれ、学習内容の理解が進むと考える。

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・職業選択、雇用と労働、社会保障のしくみについて、語句の意味、制度の内容を理解している。 ・資料から、少年非行・少年犯罪の傾向を適切に読み取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業選択、雇用と労働、社会保障について、豊かな生活を実現するための施策を考察している。 ・具体的事例に対する支援・施策の具体的・効果的な活用方法や、支援を受けられない層への新たな支援・施策について考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本経済に関わる諸問題について、よりよい社会の形成に関心を持ち、課題解決の意義を見いだしている。

8. 指導と評価の計画(全7時間)

第一次 日本経済の特質と課題	3時間
・産業構造の変化と中小企業	1時間
・雇用と労働問題	1時間
・社会保障制度	1時間
第二次 少年非行・少年犯罪と貧困問題	2時間(本時2時間連続)
第三次 まとめ	1時間

次	時	ねらい・学習活動 ◇学習活動の概要 問…中心発問 留>留意点	知	思	態	評価基準・評価方法等
						○評定に用いる評価 ●学習改善につなげる評価
単元の導入	1	【単元を貫く問い】豊かな生活に必要な政策は何か？				
		◇問いの答えについて、現在行われている政策と関連付けながら予想する。			●	●問いの答えを予想しながら、課題解決への見通しを立てる。(発言)
第1次	1	【ねらい】職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などの日本経済に関わる諸問題について知り、日本経済の解決すべき課題を考える。				
		【問い】日本経済の課題を解決するために、どのような施策が必要だろうか。 ◇職業に関わって、産業構造の変化、中小企業の役割について理解し、社会の変化と職業について考察する。 問 今後、職業や企業はどのような変化を遂げていだろうか。 留>・AI、IoT、Society5.0等の社会の変化に着目させ、人間が担うべき役割について考えさせる。	●	●		●社会の変化に伴う産業構造の変化や中小企業の役割を理解している。(知・記述) ●社会の変化に対応した職業のあり方を考察している。(思・記述)

	2	◇労働三権、労働三法について理解し、望ましい労働のあり方について考察する。 問 日本型雇用が変化しつつあるのはなぜか。 留>フレックスタイム制、テレワークなどの新たな働き方から、日本型雇用の合理性について考察させる。	●	●	●労働三権、労働三法の内容を理解している。(記述) ●社会の変化と雇用・労働の変化について、日本型雇用と関連付けて考察している。(記述)
	3	◇日本の社会保障制度について理解し、国民負担率や受益と負担のバランスから、社会保障制度のあり方について考察する。 問 日本の社会保障制度を持続可能なものにするための制度を考えよう。 留>少子高齢化に着目させ、公正・公平の観点から考察させる。 ・ノーマライゼーションの理念にも着目させ、福祉を受けるだけでなく、すべての人が活躍できる社会の形成に向けた取り組みにも言及する。	●	●	●日本の社会保障制度のしくみについて理解している。(記述) ●国民負担率や受益と負担のバランスから、持続可能な社会保障制度と、ノーマライゼーションの実現について考察する。(記述) ○職業選択、雇用と労働、社会保障について、豊かな生活を実現するための施策を考察している。(記述)
第2次 3 時間	【ねらい】貧困問題について少年非行・少年犯罪の事例を通して理解を深め、課題解決のために必要なことを考察する。				
	【問い】少年非行・少年犯罪を減らすために、誰に対してどのような支援が必要か？				
	4	◇資料から、日本における少年非行・少年犯罪の傾向を読み取る。 留>使用教材 『令和4年度犯罪白書』P. 104～P. 155	○		○資料から、少年非行・少年犯罪の傾向を適切に読み取っている。(記述)
	5	◇具体的事例の背景にある社会問題を読み取る。 留>使用教材 石井光太著『本当の貧困の話をしよう 未来を変える方程式』P. 162～P. 167 ・登場人物とその行動を整理し、行動の背景にある社会問題に気付かせる。		●	●具体的事例から、少年非行の背景には様々な社会問題があることに気付く。(記述)
	6	◇具体的事例を解決・解消するために必要な支援・施策を考察する。		○	○支援・施策の具体的・効果的な活用方法や、支援を受けられない層への

	時	留>・実際に活用されている支援・施策について考える場合は、誰に対してどのような施策が効果的なのかを考察する。 ・新たな支援・施策を生み出すことについても考察する。				新たな支援・施策について考察している。(記述)
第3次	7	【単元を貫く問い】豊かな生活に必要な政策は何か？				
1時間		◇学習内容を総括しながら、問いに対する答えを作成し、解決すべき課題を話し合ったりするなどして、今後の学習につながっている。			○	○日本経済に関わる諸問題について、よりよい社会の形成に関心を持ち、課題解決の意義を見いだしている。(記述)

9. 本時の学習

①本時の目標

少年非行の背後にある社会問題を読み取る活動を通して、既存の政策の問題点を指摘し、自身で考えた新たな政策を表現することができている(思考力、判断力、表現力等)。

②本時について

・教材観

本時では、貧困問題を考えるに当たり、「少年非行・少年犯罪と貧困問題」を主題として取り扱う。少年非行・少年犯罪の背景には貧困問題をはじめとする様々な社会問題があることに気付き、社会問題の解決が少年非行・少年犯罪の解決にどのようにつながるのか、社会問題をどのように解決するのか、について考察させたい。

少年非行・少年犯罪は、生徒にとっては遠い世界の出来事のように感じていると考えられるが、それと同時に、年齢的な近さや、いつ巻き込まれるかもわからないという点でとても身近なトピックである。少年犯罪・少年非行の背景、要因をとらえ、解決するための方策を考察するために、具体的な事例を用いて主題を探究させたい。

主題の探究にあたって、石井光太著『本当の貧困の話をしよう 未来を変える方程式』P. 162～P. 167を使用し、売春により少年院に入院した女子の具体的な事例を用いて少年非行・少年犯罪の要因と解決策を考察する。その際、事例に登場する人物の基本的な人権の保障に着目させたり、登場人物の所属するコミュニティに着目して、世代間の協力・協働や、自助・共助及び公助などによる社会的基盤の強化などと関連付けたりするなどして、主題を追究したり解決したりできるようにする。

・生徒観

本時の学習までに、社会保障制度や少年非行・少年犯罪の傾向について学習しており、本時の活動に必要な知識は有していると考えられる。しかし、具体事例と自らの知識を結び付けることが苦手な生徒がいるため、支援が必要である。発表の際には、発表者の意見を静かに聞こうとする雰囲気があるが、ひとたび笑いが起きてしまうと切り替えることが難しいときがある。情報共有や発表の仕方などに工夫が必要だと感じている。

25	<p>誘われる</p> <p>母:未婚で少女を出産、借金や短期バイトで収入を得る、少女に不平不満をぶつける、実家のおじ(母の兄)に頼る</p> <p>おじ:母に金銭の援助、少女に性的虐待</p> <p>先輩:肉体関係を見返りに少女を宿泊させる</p> <p>客(恋人):少女を援デリに誘う</p> <p>(3)事例の考察</p> <p>問晴美を生きづらくさせた原因人物ランキングを作成しよう。</p> <p>⇒ 生徒それぞれがランキング</p>			
35	<p>問 一人ひとりのランキングをもとに、班のランキングを決定しよう。</p> <p>⇒ 班のランキングを決定</p>			<p>事実とともに、その行動に至った背景まで考察している。(記述)</p>
50	<p>【1限目終了】</p>			
0	<p>【2限目開始】</p>			
15	<p>3. 展開Ⅲ 具体的事例の背景を想像する</p> <p>◇考察に関する合意形成を行い、登場人物の背景などに意識を向けて評決を下す。</p> <p>(1)合意形成</p> <p>問 クラスのランキングを決定しよう。</p> <p>⇒ 班のランキングを発表させ、クラスでのランキングを話し合いで決定する。</p> <p>留>タブレットを使用し、ランキングを共有する。</p> <p>話し合いが円滑に進むよう支援する。</p>			<p>他者の意見を尊重しながら合意形成している。(発言)</p>
30	<p>(2)問題の整理</p> <p>問 クラスでのランキングをもとに、量刑を決めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監護者わいせつ罪:6か月以上10年以下の懲役 ・監護者性交等罪:5年以上の有期懲役(懲役18年の判例あり) ・売春の斡旋:2年以下の懲役または5万円以下の罰金 <p>留>刑法の規定を示すことで、誰の行為がどのような罪で、どのような刑罰を科すとされているのかを理解させる。刑法の規定と生徒の認識に乖離があれば、その乖離がなぜ生まれたのかを考えさせる。</p>			<p>他者の意見を尊重しながら合意形成している。(発言)</p>
35	<p>4. 展開Ⅳ 少年犯罪の背景を探る</p> <p>◇具体的事例から、非行に至った背景にある社会問題を理解する。</p> <p>(1)事例の確認</p> <p>問 先ほどの事例には、どのような社会問題が隠れているか。</p> <p>⇒ 貧困、いじめ、虐待、未成年の非行、愛情飢餓 など</p>			<p>既習の知識を活用している。(発言)</p>
35	<p>(2)具体的な支援について</p> <p>問 事例の少女を救うために、何ができるだろうか。</p>			<p>少女へのアプローチだけでなく、周</p>

	⇒ ひとり親家庭への支援、虐待対策、訪問指導、学校と家庭の連携、少女への自立支援 など 留>個人としてできることに加え、既存の制度を活用することや、新たな制度の創出も考えさせる。			困の人物にも着目している。(記述)
45	5. まとめ 非行から抜け出す道を探る ◇本日の問いに対する自身の答えを、学習活動と関わらせながらまとめる。 問 少年犯罪や少年の非行を減らすために、何ができるか。 留>まとめた意見をタブレットに入力し、提出。		○	少年犯罪や少年の非行の背景にある社会問題を政策から解決しようとしている。(記述)

④準備物

資料、タブレット、スライド、提出用データのフォーマット

⑤本時の評価規準および基準(思考・判断・表現)

A	少年犯罪や少年の非行の背景にある社会問題を自身で考えた新たな政策から解決しようとしている
B	少年犯罪や少年の非行の背景にある社会問題を政策から解決しようとしている
C	少年犯罪や少年の非行の背景にある社会問題を解決しようとしている